

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよいまちづくり	④道路・交通	①	安全な道路区間の整備

事業名	めいわく駐車対策事業	担当課名	土木課
-----	------------	------	-----

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
交通渋滞や交通事故の原因となる違法駐車車両に対して注意勧告を行い、歩行者の安全と交通の円滑化を確保する。
(事業概要等)
泉大津警察署・泉大津交通安全協会と協働で、市内一円の生活道路を巡回し、めいわく駐車車両に対して警告をおこなう。 また、路上に放置されている自動車について、レッカー移動・処分をおこなう。

【事業費】

項目／年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	0	0	0	54	
うち市負担分(千円)	0	0	0	54	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
放置自動車処分台数	台	0	0	0	0
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
めいわく駐車車両に対しての定期的な警告指導により、放置自動車処分台数が0台となっている。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	特になし。
------------	-------

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	特になし。
-----------------	-------

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) めいわく駐車車両に対しての定期的な警告指導により、放置自動車処分台数は0台となっているが、今後とも継続する必要がある。
	改革・改善策等の具体的内容	特になし。

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよい まちづくり	④道路・交通	①	安全な道路空間の整備

事業名	自転車ネットワーク整備事業	担当課名	土木課
-----	---------------	------	-----

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
歩行者、自転車、自動車を区分し、歩行者・自転車利用者の快適で安全な自転車通行空間を確保するために事業を行う。
(事業概要等)
車道に自転車通行帯を表記し、走行空間を施工する。

【事業費】

項目／年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	27,931	7,691	29,792	36,939	
うち市負担分(千円)	27,931	7,691	24,611	34,738	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
自転車ネットワーク計画路線の整備率(16,740m) [既整備済6,120m含。未認可路線不含。]	%	64	64	67	75
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
平成28年度より事業実施。整備済延長は、森9号線1,060m、泉大津中央線1,800m、南海中央線2,200m、助松千原線1,060m、泉大津池浦線1,660m、助松式内線3,060mの合計10,840mとなる。令和4年度は南海中央線420mを実施し、令和5年度は1,310mより整備工事を予定。					

【事務の見直し点】

R3年度からの 改善点	
----------------	--

【課題(問題点)】

R4年度における 課題(問題点)	
---------------------	--

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 交通体系での安全安心に直結する事業として整備を進める必要があるため。
	改革・改善 策等の具体的 内容	

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよいまちづくり	④道路・交通	1	安全な道路空間の整備

事業名	地籍調査整備事業	担当課名	土木課
-----	----------	------	-----

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
国土調査法に基づき、市が主体的に隣接土地所有者と官民境界の確認を図る。
(事業概要等)
国土調査法に基づき、市が主体的に隣接土所有者を調査し、現地にて境界について協議し、官民双方で境界について確認する。

【事業費】

項目／年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	36	2,630	4,189	4,966	
うち市負担分(千円)	36	692	1,054	1,303	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
地籍調査済面積	m ²	0	150	300	100
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
令和4年度は昭和町の一部で街区境界調査を行った。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	公共施設適正配置基本計画等も鑑み、適正な土地活用が図れるように調査区域を選定した。
------------	---

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	市域すべてを完了するのに長期間を要する
-----------------	---------------------

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 地籍調査を推進していくことは災害時の復旧等を迅速に行うため土地の権利関係を明確にした現地復元性のある地図を備えるため。
改革・改善策等の具体的内容		

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよいまちづくり	④道路・交通	1	安全な道路空間の整備

事業名	道路・法定外公共物明示境界確定事業	担当課名	土木課
-----	-------------------	------	-----

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
道路及び法定外公共物の境界を確定する。
(事業概要等)
土地所有者が公共用地境界確定申請書を提出し、現場立会を行い公共用地境界確定図を交付する。

【事業費】

項目／年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	97	154	94	280	
うち市負担分(千円)	97	154	94	280	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
公共用地境界明示交付件数	件	61	84	69	80
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
令和4年度は69件の公共用地の境界が確定した。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	事務処理マニュアル等を作成し、申請書類の確認や確定図作成時のチェック等を複数人にて行っている。
------------	---

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	境界確定には専門的な判断や経験が必要であり、今後これらの知識をどのように伝承するかが課題である。
-----------------	--

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 公共用地境界は市と土地所有者が対等な立場で協議し合意に達した場合に成立するものであり、道路等管理者としての市と隣接土地所有者との契約行為であり、今後も現行どおりと考える。
	改革・改善策等の具体的内容	

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよいまちづくり	④道路・交通	1	安全な道路空間の整備

事業名	道路用地整備事業	担当課名	土木課
-----	----------	------	-----

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)	市道路敷内に存する個人所有地の権原を取得する。
(事業概要等)	市道路敷内に存する個人所有地の寄付申請及び用地買収に伴う現地測量及び地積測量図等の登記書類を作成し、市道路敷の権原取得を図る。

【事業費】

項目／年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	1,938	1,441	775	2,000	
うち市負担分(千円)	1,938	1,441	775	2,000	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
道路用地取得面積	m ²	230	570	212	200
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
市道路敷を構成している個人所有地を寄付受納等により権原を取得し、市道の保全が図れた。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	道路用地寄付申請の簡素化を図った。
------------	-------------------

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	事務処理には専門的な判断や経験が必要であり、今後これらの知識をどのように伝承するかが課題である。
-----------------	--

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 道路法の規定により、市道の敷地等について道路管理者が所有権、使用权等の権原を取得する必要があり現行どおり行う必要がある。
改革・改善策等の具体的内容		

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよいまちづくり	④道路・交通	①	安全な道路空間の整備

事業名	放置自転車等対策事業	担当課名	土木課
-----	------------	------	-----

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
駅周辺道路等における自転車等の放置防止に対する措置を講ずることにより歩行者等の安全な通行と災害時における防災活動の確保を図るとともに良好な生活環境を保持することを目的とする。
(事業概要等)
南海本線3駅周辺の放置自転車禁止区域において、自転車が放置されないように指導啓発を行い、なおかつ放置される自転車を撤去・移動し、保管・返却を行う。引取りが無い場合はリサイクル又は廃棄処分を行う。また、南海本線泉大津駅、松ノ浜駅高架下へ駐輪場の整備を行い、管理運営は、指定管理者制度を導入している。

【事業費】

項目／年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	49,221	29,203	11,135	14,775	
うち市負担分(千円)	49,221	29,203	11,135	14,775	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
放置自転車指導啓発台数	台	576	540	416	400
放置自転車撤去台数	台	186	227	191	150
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
泉大津駅、松ノ浜駅高架下へ駐輪場の整備を行い、指定管理者に駐輪場の管理運営と併せて放置自転車対策を委託したことによって、総合的な放置自転車対策が実施できた。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	放置自転車対策事業を指定管理者に総合的に行わせることで、事務負担の軽減と住民サービスの向上が図れた。
------------	--

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	駐輪場の整備や指定管理者制度の導入により、放置自転車台数はかなり減少してきているが、今後も更に費用対効果を追求し効率のよい放置自転車対策を行う必要がある。
-----------------	---

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 指定管理者が行うことで効果的で効率的な放置自転車対策ができた。
改革・改善策等の具体的内容	泉大津駅高架下施設利用者などの、駅前空間における放置自転車の指導・啓発及び駐輪場の利用促進の強化方法を検討する。	

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよいまちづくり	④道路・交通	④	ユニバーサルデザインの視点に立った道路のバリアフリー化の推進

事業名	福祉のまちづくり歩道改良事業	担当課名	土木課
-----	----------------	------	-----

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
高齢者及び身体障がい者等に配慮した福祉のまちづくりを推進するため、歩道の段差等の改善を行い、安全快適で人にやさしい交通環境づくりを推進する。
(事業概要等)
歩道段差改善及び視覚障がい者誘導ブロック設置。

【事業費】

項目／年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	1,843	1,635	1,738	2,115	
うち市負担分(千円)	1,843	1,635	1,738	2,115	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
歩道段差等改善箇所	箇所	4	1	0	0
視覚障がい者誘導ブロック設置箇所	箇所	3	16	16	30
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
令和4年度は、16箇所の視覚障がい者誘導ブロックを設置。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	
------------	--

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	限られた予算の中で費用対効果を追及し、いかに効率のよい施設管理が行えるかが課題である。
-----------------	---

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 歩道段差を解消、視覚障がい者誘導ブロックを設置することは、誰もが円滑に通行するために必要である。
	改革・改善策等の具体的内容	

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよいまちづくり	④道路・交通	⑤	交通安全対策の充実

事業名	交通安全教育・啓発事業	担当課名	土木課
-----	-------------	------	-----

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
交通弱者に対し、交通安全教室・研修会等を通じ交通安全意識の高揚を図る。
(事業概要等)
泉大津警察署、泉大津交通安全協会等の各種団体と連携し、市内の高校・小中学校・幼稚園・保育所・認定子ども園を対象に交通安全教室を年間25回程度開催、一般の市民の方に向けて運転者講習会を年8回、街頭啓発、高齢者講習会などを春・秋に実施予定をしている。また、自転車用ヘルメットの購入費助成も行っている。

【事業費】

項目／年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	2,051	2,313	2,521	2,409	
うち市負担分(千円)	2,051	2,313	2,521	2,409	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
街頭啓発参加人数	人	0	18	36	100
交通安全教室参加人数	人	1,137	1,070	1,065	5,000
運転者講習会参加人数	人	0	0	0	200
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
継続的な交通安全啓発活動及び小学校の児童に対する交通安全教室の実施により、交通安全意識の高揚を図ることができた。					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	交通安全教室で使用するDVDのバリエーションを増やした。また、改正道路交通法により自転車用ヘルメット着用が努力義務となったため購入費助成についての周知・啓発を行った。
------------	---

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	啓発活動、交通安全教室により交通マナーの向上が図れているが、未だルールを守らない通行人等が散見されるため、交通安全啓発等の方法も検討すべきと考える。
-----------------	--

【今後の方向性】

担当課の評価	B 改善し継続	(左記評価の理由) 改めて、交通安全運動の必要性を再認識し、交通安全に関する意識を高め、交通事故を減らし、防止するためにも、啓発活動は継続していく必要があると考える。
	改革・改善策等の具体的内容	コロナ禍において中止となっていた各教室や講習会の再開に向け、関係機関と連携・協議を行っていく。また中学校での交通安全教室については、全校生徒が講堂へ集結することを避けるためにもオンラインでの交通安全教室が最適な方法であり実施に向け、関係機関と連携しオンラインでの交通安全教室に向け協議を重ねる。

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	⑤コンパクトで居心地のよいまちづくり	④道路・交通	⑤	交通安全対策の充実

事業名	交通安全施設整備事業	担当課名	土木課
-----	------------	------	-----

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)	市内一円の市管理道路について、安心して快適な道路環境整備を推進することを目的とする。
(事業概要等)	交通安全付属施設の設置及び改修

【事業費】

項目／年度	R02 (決算額)	R03 (決算額)	R04 (決算見込額)	R05 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	16,046	31,239	38,367	44,788	
うち市負担分(千円)	16,046	31,239	38,367	44,788	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	R02年度 実績値	R03年度 実績値	R04年度 実績値	R05年度 目標値
カーブミラー・照明灯設備	箇所	24	17	21	25
道路区画線施工	m	5,691	9,024	11,024	13,000
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
道路区画線、カラー舗装施行 11,024m 照明灯 2箇所 カーブミラー 19箇所					

【事務の見直し点】

R3年度からの改善点	警察署と市内の危険箇所や市民の要望について情報を共有することで、迅速に対応することができた。
------------	--

【課題(問題点)】

R4年度における課題(問題点)	限られた予算の中で、費用対効果を追求し、いかに効率のよい施設管理が行えるかが課題である。
-----------------	--

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 道路機能と環境性の向上を図ることで、交通ネットワークの側面から都市機能の活性化を図る。
改革・改善策等の具体的内容	引き続き警察署等と連携し、要望や危険箇所の的確な把握に努めることで、効果的な交通安全付属施設の設置及び管理を行う。	